

第 51 回全国精神保健福祉センター研究協議会

岡山市の自殺ハイリスク者支援 ～つながりにくい人とつながり続けるために～

岡山市こころの健康センター

○神田かおり 岸 倫衣 石原 江里
土器 悦子 太田順一郎

1 はじめに

岡山市では、平成 24 年度から 26 年度にかけて、自殺ハイリスク者への支援を行うため、「気づき・つながり・支えるいのち支援事業」を行ってきた。これまでの先行研究から、自殺企図の既往は自殺の重大な危険因子であると考えられている。このことから、本事業でも自殺未遂者が自殺企図を繰り返さないよう支援を行うことが重要であると考え、救急病院へ継続的に巡回することで、自殺ハイリスク者を当センターにつないでいただくよう依頼し、支援を行ってきた。支援につながりにくい人とつながり続けることを目標に行ってきた 3 年間の事業内容と支援結果について報告する。

2 方法

平成 24 年度から平成 26 年度に行った事業内容の変遷をまとめた。また、対応事例の概要（対応事例数、初回相談者、相談経路、転帰）について年度ごとにまとめ、比較した。

3 結果

(1) 事業内容

事業開始初年度から救急病院（7 か所）への巡回訪問を継続的に行った。訪問回数は、平成 24 年度 48 回、平成 25 年度 53 回、平成 26 年度 16 回であった。なお、平成 26 年度の回数が減少しているのは、救急病院との連携がとれつつあったことから訪問回数を減らしたためである。また、平成 26 年度後半から、新たに警察と精神科病院との連携を開始した。警察へは 3 回、精神科病院へは 7 回訪問した。

関係機関から当センターを紹介していただく方法については、当初はチラシを作成し、職員の手渡し或いは窓口設置という方法をとっていた。しかし救急病院職員との意見交換の場で、持ち帰るにはチラシは大きくて目立つため、小さなカードの方がよいのではとの意見があり、平成 25 年度途中からカードに変更した。それにより救急病院職員から、多忙な業務の中でも渡しやすくなったとの声がかかれた。さらに、窓口に設置しやすいと、設置機関も増加した。

支援方針については、平成 25 年度当初、それまでの対応を通して、従来の支援方法ではつながるのが難しいと感じていたため、支援方針について見直しを行い、「少しお節介にこちらから関わる」ことを意識して支援するよう変更した。

(2) 対応事例概要

①対応事例数：平成 24 年度 13 件、平成 25 年度 26 件（前年度からの継続 3 件含む）、平成 26 年度 53 件（前年度からの継続 9 件含む）であり、年々増加していた。

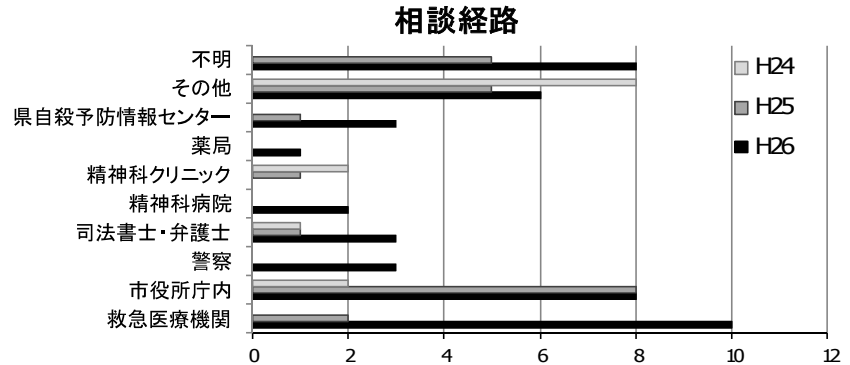
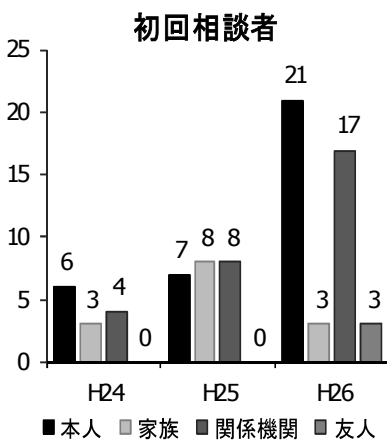
②初回相談者（各年度新規受付分）：平成 24 年度は「本人」6 件、「家族」3 件、「関係機関」4 件であった。平成 25 年度は「本人」7 件、「家族」8 件、「関係機関」8 件であった。平成 26 年度は「本人」21 件、「家族」3 件、「関係機関」17 件、「友人」3 件であった。平成 26 年度になり、「本人」と「関係機関」からの相談が増加していた。

③相談経路（各年度新規受付分）：平成 24 年度は「救急医療機関」0 件、「市役所庁内」2 件、「警察」0 件、「司法書士・弁護士」1 件、「精神科病院」0 件、「精神科クリニック」2 件、「薬局」0 件、「県自殺予防情報センター」0 件、「その他」8 件、「不明」0 件であった。平成 25 年度は「救急医療機関」2 件、「市役所庁内」8 件、「警察」0 件、「司法書士・弁護士」1 件、「精神科病院」0 件、「精神科クリニック」1 件、「薬局」0 件、「県自殺予防情報センター」1 件、「その他」5 件、「不明」5 件であった。平成 26 年度は「救急医療機関」10 件、「市役所庁内」8 件、「警察」3 件、「司法書士・弁護士」3 件、「精神科病院」2 件、「精神科クリニック」0 件、「薬局」1 件、「県

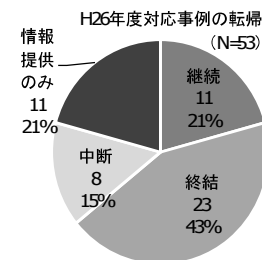
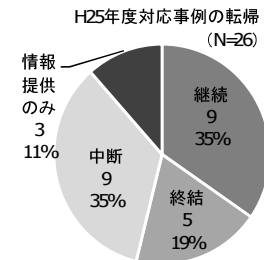
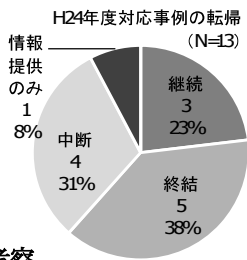
第 51 回全国精神保健福祉センター研究協議会

自殺予防情報センター」3件、「その他」6件、「不明」8件であった。平成26年度になり「救急医療機関」が増加していた。なお、「救急医療機関」の相談経路のうち、平成25年度2件と平成26年度10件のうち7件は、救急病院職員の関与があり紹介等となっていた。平成26年度残り3件は、直接本人がカードをとって連絡してきた。

④転帰：各年度、翌年6月末時点の転帰をとった。支援継続している事例を「継続」、2回以上対応し本人と相談した上でフォロー終了した事例と、他機関で継続フォローとなり支援終了した事例を「終結」、継続フォローの必要性を感じていたが支援中断した事例を「中断」、他機関から自殺ハイリスク者について情報提供があり支援の準備はしていたが実際に関わりはなかった事例を「情報提供のみ」とした。平成24年度対応事例では「継続」3件(23%)、「終結」5件(38%)、「中断」4件(31%)、「情報提供のみ」1件(8%)であった。平成25年度対応事例では「継続」9件(35%)、「終結」5件(19%)、「中断」9件(35%)、「情報提供のみ」3件(11%)であった。平成26年度対応事例では「継続」11件(21%)、「終結」23件(43%)、「中断」8件(15%)、「情報提供のみ」11件(21%)であった。平成26年度になり「終結」と「情報提供のみ」の割合が増加し、「中断」の割合が減少していた。



	救急医療機関	市役所庁内	警察	司法書士・弁護士	精神科病院	精神科クリニック	薬局	県自殺予防情報センター	その他	不明
H24	0	2	0	1	0	2	0	0	8	0
H25	2	8	0	1	0	1	0	1	5	5
H26	10	8	3	3	2	0	1	3	6	8



4 考察


対応事例数が年々増加し、特に「関係機関」からの相談が事業開始初年度と比べ約4倍に、「本人」からの相談が約3倍に増加した。「関係機関」からの相談が増加していたことから、事業の成果の1つとして、関係機関との連携はできつつあるのではないかと考える。中でも相談経路で「救急医療機関」が増加したことは、平成24、25年度に救急病院を頻回に巡回し、関係構築してきた成果であると考えられる。また、「本人」からの相談が増加していたことは、様々なところにカード設置したことで、本人がカードを手にするのが容易になったことが関係しているのではないかと推察する。カードであれば窓口等に設置していただきやすく、カードを手にした後も財布等に入れて持ち歩くことも容易であり、相談窓口の周知方法として有効であったのではないかと考える。

また、平成26年度になり「中断」の割合が減少した。このことは、「少しお節介にこちらから関わる」ことを意識してきたことが一因ではないかと推察する。しかし、平成26年度も一定数「中断」事例はあることから、今後よりつながることができるよう、中断事例について詳細な検討が必要だと考える。

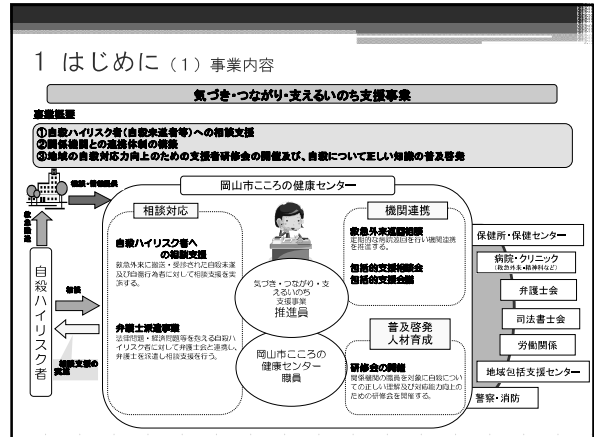
第51回全国精神保健福祉センター研究協議会 平成27年11月4日

岡山市の自殺ハイリスク者支援

～つながりにくい人とつながり続けるために～



岡山市こころの健康センター
 神田かおり・岸 倫衣・石原江里・
 土器悦子・太田順一郎

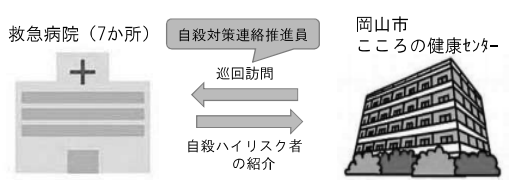


1 はじめに (1) 事業内容

* 救急病院への巡回訪問


- 自殺未遂者が自殺企図を繰り返さないよう支援を行うことが重要→救急病院との連携

救急病院 (7か所) 自殺対策連絡推進員 岡山市こころの健康センター



1 はじめに (2) 目的

- 3年間 (H24～26年度) の事業内容と支援結果についてまとめ考察し、今後の示唆を得ること



2 方法

(1) 事業内容の変遷についてまとめる

- 巡回訪問
- 紹介ツール
- 支援方針

(2) 対応事例の概要について、年度ごとにまとめ比較する

- ①対応事例数 ②初回相談者
- ③相談経路 ④転帰

3 結果 (1) 事業内容の変遷

①巡回訪問

- H24 ・救急病院への巡回訪問48回 (9月～)
- H25 ・救急病院への巡回訪問53回
- H26 ・救急病院への巡回訪問16回
 ・警察への訪問3回、精神科病院への訪問7回

＊警察との連携

- ・ある1つの警察署（生活安全課）から相談が入ったことをきっかけにつながる
- ・その警察署から、市内の他の警察署（生活安全課）にも連絡を入れてくださり、訪問に行くことができるように（H26秋～）

＊精神科病院との連携

- ・岡山市内にある元県立精神科病院（1か所）と連携
- ◆自殺未遂者が入院する病棟のスタッフ（医師、看護師、精神保健福祉士等）と連携開始（H26秋～）

3 結果（1）事業内容の変遷

②紹介ツール

H24

- ・チラシを作成し、救急病院職員から対象者へ手渡し
或いは窓口設置し、当センターへつないでいただく

H25

- ・救急病院職員から、大きなチラシより小さなカードの方がよいのでは、との意見→小さなカードに変更

H26

- ・救急病院以外の関係機関（市役所窓口、薬局等）にもカード配布開始 ⇒ カードの設置機関増加

＊救急病院 配布チラシ



＊カード



救急病院職員から「地図を入れてほしい」との要望あり



3 結果（1）事業内容の変遷

③支援方針

H24

- ・通常のやり方で支援を行うも… → つながることの難しさを痛感

H25

- ・年度当初：支援方針の見直し → 『少しお節介りにこちらから関わる』

H26

- ・H25年度からの方針を継続

少しお節介りに関わった事例

3 結果（2）対応事例の概要

①対応事例数

年度	H24	H25	H26
新規	13	23	44
継続	-	3	9
合計	13	26	53

年々増加

3 結果（2）対応事例の概要

②初回相談者（件数） ※新規のみ

関係者	H24	H25	H26
友人	0	3	0
関係機関	4	8	17
家族	3	8	3
本人	6	7	21

H26年度になり「本人」と「関係機関」が初回相談者となる事例数が増加

3 結果（2）対応事例の概要

②初回相談者（割合） ※新規のみ

関係者	H24 (N=13)	H25 (N=23)	H26 (N=44)
友人	0.0%	0.0%	3.7%
関係機関	31%	35%	38%
家族	23%	35%	7%
本人	46%	30%	48%

ただし、割合からみると大きな特徴はなし

3 結果（2）対応事例の概要

③相談経路 ※新規のみ

相談経路	H24	H25	H26
救急医療機関	0	2	0
市役所庁内	2	0	1
警察	0	1	0
司法書士・弁護士	0	1	0
精神科病院	0	2	0
精神科クリニック	0	0	1
薬局	0	0	1
市役所庁内	10	8	3
救急医療機関	0	0	0
不明	0	0	0
計	13	23	44

H26年度になり「救急医療機関」からの紹介数が増加

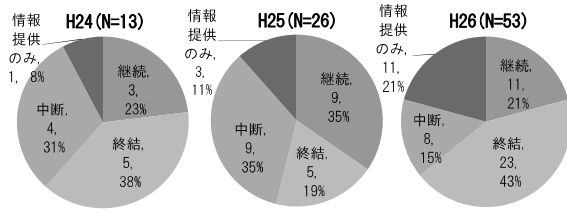
3 結果（2）対応事例の概要

④転帰

- ◆各年度、翌年6月末時点の転帰をとった。
- 「継続」：支援継続している事例
- 「終結」：2回以上対応し本人と相談した上でフォロー終了した事例と、他機関で継続フォローとなり支援終了した事例
- 「中断」：継続フォローの必要性を感じていたが発援中断した事例
- 「情報提供のみ」：他機関から自殺ハイリスク者について情報提供があり支援の準備はしていたが実際に関わりはなかった事例

3 結果（2）対応事例の概要

④ 転帰



H26年度になり「中断」の割合が減少

4 考察

◆ 対応事例数の増加

- ・中でも「救急医療機関」を通しての相談が増加
⇒H24～25年度に、救急病院を頻回に巡回し、関係構築してきた成果

また、救急病院職員からの意見をうけ、小さなカードを利用したの相談窓口周知をしたことによる効果（渡しやすい、持ち運びが容易）

4 考察

◆ 「中断」の割合が減少

⇒『少しお節介にこちらから関わる』ことを意識してきたことが一因ではないか

- ・ただし、まだ一定数「中断」事例がある
⇒よりつながることができるよう、中断事例について今後詳細な検討が必要

最後に

- ・H27年4月からは、岡山市自殺予防情報センター事業として、自殺ハイリスク者への相談支援を継続
- ・職員も4名に増加（正職員2名、嘱託2名）
- ・H26年度途中からはじめた精神科病院との連携も進み、対応事例数は増加中
※半年間（H27. 4. 1～H27. 9. 30）で、新規53件

引き続き、多くの方から意見をいただきながらよりよい支援をしていきたいと思っております。
ご清聴ありがとうございました。

